

こどもの城 ニュース



1999.10.15 NO. 99 発行 / (こどもの城) 広報部 ☎03-3797-5666
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1



「やんぱんぱん」

目に青葉、山ホトトギス初ガツオ。これは5月ごろの光景をうたったものです。ホトトギスは例年5月中旬に日本に渡ってくる鳥です。「東京特許許可局」と鳴く、カッコウなどと同じ仲間です。

秋には同じ名前のきれいな花が咲きます。林の裾のやや薄暗い場所で、上向きの花を開きます。花びらにつくはん点が、鳥のホトトギスの胸の模様似ているところからこの名前がつけられました。写真はヤマホトトギス。(こどもの国=横浜)



子どもとの時間を大切に!

10月30日～11月7日
こどもの城ファミリーウィーク

11月1日は〔こどもの城〕の開館記念日。14回目の誕生日を迎えます。今年も、開館記念日を中心に「こどもの城 ファミリーウィーク」を開催します。

子どもは、いろいろな“世界”を体験して成長していきます。学校や幼稚園、保育所のように子どもが中心の“世界”もあれば、家族のように大人と子どもが一緒に“世界”もあります。子どもは、それぞれの“世界”

で、そこでしか得られない体験を積み重ねて成長していきます。〔こどもの城〕の遊びのプログラムも、子ども同士で楽しむもの、親子で楽しむものなどさまざまなものがあります。

「こどもの城 ファミリーウィーク」は、親子で楽しむ遊びのプログラムが中心。親も子ども“夢中”になって遊びを楽しんでください。今まで気づかなかった“子の一面”“親の一面”が見つかるかもしれません。



赤ちゃんがいっぱい! (前回の「赤ちゃん大集合」)

第6回 赤ちゃん大集合! [11月2日/研修室・体育室・音楽ロビー]

0～1歳児の赤ちゃんとお母さん、お父さんが対象です。恒例の「赤ちゃんサロン」特別版のほかに、スポーツや音楽のプログラムも加わりました。

※11月2日は火曜日なので、研修室と体育室のプログラムを除き、〔こどもの城〕の開館時間は午後0時30分。

「みんな集まれ! 赤ちゃんサロン」 [午前10時30分～午後3時/研修室]

同年齢の赤ちゃんを持った人が集まって、ワイワイガヤガヤ“井戸端会議”。小児科医の話の聞いたり、保健婦や看護婦、栄養士、臨床心理士など“子育てのプロ”に気軽に相談したり、親子遊びを楽しんだりともりだくさんのプログラム。“話す”ことで、心のもやもやを吹き飛ばし、気分をリフレッシュ。

「お母さんと赤ちゃんのすくすく体操」

[午前10時45分～11時30分/体育室]

赤ちゃんの成長・発達に合わせて、子育てのなかで手軽にできる親子体操を紹介。親子の二人三脚で行います。ふれあい体操や、成長・発達にあわせて無理なくできるスポーツ遊びのプログラムです。



赤ちゃんの発達にあわせた親子体操

親子で一緒に遊ぶプログラム

親子で一緒にひとつのものに取り組む機会は、多くはありません。アイデアを出し合ったり、話し合ったり——“夢中”になって遊んでください。

「親子で楽しくレクリエーション」

[10月30・31日、11月2・3・6・7日/体育室]

ボールやなわなどの身近な道具を使ったレクリエーションとスポーツ遊び。お父さん、お母さんも日ごろの運動不足を解消すると同時に、親子のスキンシップもはかれます。

「第6回 親子体験ワークショップ」

[10月30日～11月7日/造形スタジオ]



タケノコノコノコ(左)と、なかよしタケちゃん(右)

今年の造形スタジオのテーマは“竹”。ファミリーウィークのプログラムも、竹を素材とした造形活動「タケノコノコノコ」(親子)と「なかよしタケちゃん」(小1以上)です。また、1年間の活動を振り返る「第14回造形スタジオ展」(10月30日～11月28日、休館日を除く)も開催します。



親子でゆったり作ります (前回の「親子工房」)

「つくって遊ぼう 親子工房～アロマカードづくり」 [11月2・3日/保育室I]

ポプリを使って、おしゃれなクリスマスカードを作ります。こぢんまりした部屋で、親子の会話、隣り合った家族同士の会話を楽しみながら作ります(定員制)。

「みんなでライブ! 赤ちゃんスペシャル」

[午後1時30分、午後3時30分/音楽ロビー]

親子で楽しめる音楽遊びやダンスがいっぱい。みんなが知っている歌の演奏もあります。



子どもも“夢中”に遊べ

まだまだあるよ! 楽しいプログラム!!

「秋のチャレンジゲーム～アニマルパークにようこそ」

[11月30・31日、11月3日/屋上ふしぎが丘]

動物をテーマにした5つのゲームに挑戦。自分の記録にチャレンジします。〔こどもの城〕のボランティアが企画した恒例のプログラム。

「うつしトルトル なぞってアート」 [10月30日～11月7日/パソコンルーム]

イラストや写真を電子ペンでなぞってパソコンに写し取ります。それをパソコンのグラフィックス機能を使って“加工”して楽しく遊びます。

「ビデオアスレチック」 [10月30日～11月5日/Bスタジオ]

自分の姿をビデオで写して作る“人間ばたばたアニメ”やクロマキーという画面合成技術を使って映像の不思議を体験する遊びです。

「わいわいスタジオ 創作影絵劇～アジアのおばけ インドネシア編」

[11月7日/Bスタジオ]

インドネシアに伝わるユニークな“おばけ”の話を題材に、インドネシアからの留学生と共同で制作した影絵劇。

「第6回おりがみカーニバル～ことばで遊ぶおりがみ」

[10月30日～11月14日/ギャラリー/2面参照]

※開催時間など詳しいことは、アトリウム総合受付 ☎03-3797-5666 へおたずねください。プログラムが変更になることもあります。11月1日は休館日です。

1,500万人目のお友だちを迎えることができました

友だちと遊びにきた国松由里江ちゃんに記念品



昭和60年(1985年)11月1日に開館した〔こどもの城〕。開館15周年を来年にひかえた、9月25日、開館以来の利用者が1,500万人を超えました。

1,500万人目のお客様は、大田区から遊びにきた国松由里江ちゃん(1歳7か月)。この日初めて、お母さんに連れられて、お友だちと一緒に遊びにきました。「1,500万人目のお客様です」とスタッフに告げられると、由里江ちゃんはびっくりしたようすで、お母さんにしっかりとつかまっていた。由里江ちゃんには、〔こどもの城〕の

高峯一世理事長から、感謝状や記念品などが贈られました。(写真左から、由里江ちゃんとお母さん、高峯理事長、こどもの城のマスコット、マックロー)

第6回おりがみカーニバル

“ことば”テーマに多彩な展示とワークショップ

10月30日～11月14日 ギャラリー

11月11日の「おりがみの日」にちなんで、10月30日から11月14日までギャラリーで「第6回おりがみカーニバル～ことばで遊ぶおりがみ」(主催＝こどもの城、日本折紙協会)が開かれます。数々の折り紙作品の展示のほか、期間中の土・日曜日、祝日には、だれもが参加できる折り紙のワークショップも開催されます。

「おりがみカーニバル」の展示は大きく2つのコーナーに分かれています。1つは今回のテーマ“ことば”で遊ぶおりがみにそって作られた作品(日本折紙協会所有)、もう1つは日本折紙協会がテーマを決めて公募した作品の展示です。

“ことばで遊ぶおりがみ”のコーナーでは、古くから伝わることわざや格言——「笑う門には福来る」「七転び八起き」など——をさまざまな折り紙で構成・表現したものを展示。先人の知恵が込められている“言葉”を、目で見て楽しむことができます。

日本折紙協会の公募作品は、今回の催しにあわせて行われた「おりがみカーニバル」と「99ミニチュア折紙展」の2つから展示されます。「おりがみカーニバル」のテーマは“お

りがみタイムカプセル”。さまざまな折り紙の技法を使った作品が、初公開されます。また、ミニチュア折り紙は、大きさは小さくても、細部まで注意が払われた充実した作品の



昨年の「おりがみカーニバル」

数々が展示されます。

だれもが参加できるワークショップは、期間中の土・日曜日、祝日に行われます。テーマは“つくってかざろう おりがみかるた”。A5判ぐらいの大きさの台紙に、つるなどを折って張り付け、絵紙を作ります。折り方が分かる“折り図”もいくつか用意してあるので、それを見ながら折ることもできます。読み札を作って完成です。

このほかに、[こどもの城]のボランティアが毎週木曜日にプレイホールで行っている「おりがみあそび広場」の活動を紹介します。コーナーもあります。

「今回は、“ことば”をテーマにしました。展示をとおして、人の大切なコミュニケーションの手段である言葉に注目する機会になればと思います。親子ともに心に残る展示・ワークショップにしたいと思っています」と企画担当のスタッフ。

また、公演の間には、小さい子どもでも楽しく遊べる、人形を作って遊ぶワークショップも行われます。

北方四島の就学前教育専門家が「こどもの城」を視察

北方四島に住むロシア人の就学前教育専門家(幼稚園、保育所などの先生)10人が、9月17日に[こ



熱心に視察する北方四島の就学前教育の専門家

こどもの城となかまたち

各地で「動くこどもの城」開かれる スポーツ、音楽、アニメ、パソコンなど多彩なプログラムを展開

全国の児童館・児童センターなどに、[こどもの城]のプログラムを“出前”する「動くこどもの城」を年間十数回開催しています。地域の児童健全育成事業への支援のために国の補助を受けて行っているもので、開館以来積み重ねてきた[こどもの城]のプログラムを紹介すると同時に、各地の児童館・児童センターと交流を図るのが目的です。

基本的に、子どもや親を対象に「あそび」のプログラムを実施すること、児童厚生員などを対象に講習会を行うことがセットになっています。単なる“出前”に終わるのではなく、「動くこどもの城」をきっかけに、児童の健全育成に取り組む者の交流を図ったり、プログラムの考え方なども伝えて児童館活動の活性化につなげてもらおうということから、このような方式をとっています。

秋を迎えて、各地で「動くこどもの城」が活発に行われています。9月30日に大阪府交野市保健福祉総合センターで「お母さんと赤



「お母さんと赤ちゃんのすくすく体操」(交野市保健福祉総合センター)での「動くこどもの城」

ここの児童館などでもできるようにアレンジしたもので、[こどもの城]の遊びのプログラムのノウハウが生かされています。

11月には、「パソコン遊びのワークショップ」(11月4～26日/大阪府豊中市解放開館児童館)、「お母さんと赤ちゃんのすくすく体操」(11月20日/秋田市子育て総合センター)、「みんなで遊ぼうパペットランド」(11月12～14日/栃木県こども総合科学館)、「アニメワークショップ」(11月19日/山口県児童センター/講習会のみ)が予定されています。お近くの方は、ぜひご参加ください。

平成12年度「幼児グループ」会員募集中

保育研究開発部では、平成12年度の「幼児グループ」のメンバーを募集しています。

幼児グループは、[こどもの城]を保育の場として、週4日(火～金曜日、午前10時～午後2時)、2年間にわたって継続的に活動する4～5歳児のグループ。曜日ごとにメンバーが異なる「保育クラブ」の3歳児が加わり、少人数の3～5歳の年齢混合グループで活動します。友だち集団の中で生活体験を重ね、一人ひとりの感じとる力、自分自身を表現する力を大切に育てることが保育のねらいです。複数のスタッフがチームを組んで保

育を担当し、ボランティアの協力もえて、人とかかわりを豊かに育てることをめざしています。

【募集対象・人数】4歳児(平成7年4月2日～8年4月1日)12人、5歳児(平成6年4月2日～7年4月1日)若干名
【募集要項】申し込み希望の方は、必ず、見学説明会にご参加のうえでご応募ください(10月19、22日。いずれも午前10時30分～12時。要電話予約)。応募用紙は、見学説明会終了後に配付します。
【お問い合わせ】保育研究開発部 幼児グループ係 ☎03-3797-5669)へ。

影絵、人形劇、紙芝居、パネルシアター、サンバ、絵本の読み語り ボランティアが一堂に会して 11月20、21、23日に「あそびのおもちゃ箱」

[こどもの城]で活動している青年・女性ボランティアが一堂に集まって影絵、人形劇、紙芝居、パネルシアター、サンバ、絵本の読み語りなどの公演とワークショップを行う「あそびのおもちゃ箱」が、11月20、21、23日の3日間フリーホールで開催されます。今年が8回目。

[こどもの城]のボランティアは、館内の活動のほか、野外活動などさまざまな場面で活動しています。スタッフとともに活動するものもあれば、ボランティアが中心となって企画・運営するものもあります。

「あそびのおもちゃ箱」は、プレイホール(おはなし紙芝居のついで＝火曜日、おはなし人形広場＝水曜日、パネルであそぼう＝月2回など)や

音楽ロビー(木曜ワンダーランド＝木曜日、楽器であそぼう＝金曜日など)などで活動しているボランティアが中心となって開催します。活動する曜日が異なるため、日ごろ、顔を合わせる機会が少ないボランティアが大集合します。

見るだけではなく、心と心をかよわせみんなで楽しめる公演、作ったもので遊べるように工夫をこらしたワークショップなど、だれもが楽しく遊べる「あそびのおもちゃ箱」です。「あそびのおもちゃ箱」は、午前11時～午後5時。公演は、午前11時30分、午後1時、2時30分、4時の4回(20日は午前の回は休演)。たぐさんのプログラムが日替わりで上演されます。

北方四島の就学前教育専門家が「こどもの城」を視察

北方四島に住むロシア人の就学前教育専門家(幼稚園、保育所などの先生)10人が、9月17日に[こ



熱心に視察する北方四島の就学前教育の専門家

どもの城を訪れ、保育と小児保健関係を中心に視察しました。

(社)国際交流サービス協会が行っている北方四島交流(ビザなし交流)専門家受け入れ事業の一環として来日したもの。領土問題の解決を含む日ロ間の平和条約締結問題が解決されるまでの間、相互理解の増進をはかることで問題解決に寄与することが目的の事業。午後の視察だったために、実際に保育しているようすなどを見学する時間はほとんどありませんでしたが、プログラムの実際など熱心に質問していました。

第24回NCC杯ハンパ大会 岸健人さん(小学生の部)と大河原章広さん(中学生の部)が優勝

第24回NCC杯ハンパ大会が、9月23日の秋分の日に開かれ、小学生と中学生の部に分かれて熱戦が繰り広げられました。ハンパはビリヤードに似たゲーム。

参加者は小学生が8人、中学生9人。小学生の部は総当たりのリーグ戦、中学生は2組に分かれて予選リーグを行い、各組上位2人で決勝トーナメントを行いました。決勝ともなると、ちょっとした

ミスが致命傷になります。参加した子どもたちは、真剣なおもちで試合にのぞんでいました。



中学生の部の決勝戦。左は優勝した大河原さん。

成績は、以下のとおり(敬称略)。
【小学生の部】優勝＝岸健人(小4)、準優勝＝奥田龍児(小6)、第3位＝菅原龍平(小5)、第4位＝小川佐智江(小5)

【中学生の部】優勝＝大河原章広(中1)、準優勝＝小高拓也(高2)、第3位＝加納希生(高1)、第4位＝伊藤海(高2)、敢闘賞＝井上洋市朗(中2)、小島由宇(中1)

11月の「こどもの城映画劇場」

「砂の城」でアカデミー賞(短編部門)を受賞した、人形アニメーションの名手、コ・ホードマンの作品を特集します。

- 11月14日＝11時30分、1時30分、2時30分、3時30分/4階Bスタジオ
【マトリオスカ】(Matrioska/4分46秒)＝ロシアの民芸人形・マトリオスカを使った作品。大小のマトリオスカが遊んでいる姿は、大きい子と小さい子が遊んでいるようです。
【シュッシュツ】(Tchou-tchou/1分35秒)＝積み木で作ったアニメーション。男の子と女の子が遊んでいると、突然、ドラゴンが現れます。積み木遊びが、そのままアニメーションになったような作品です。
【ふくろうとカラス】(Owl and the Raven/6分39秒)＝イヌイットの民話をもとにしたおはなし。カラスはなぜ黒い? それはネ……。

10・11月の「わいわいスタジオ」

ミニコンサートや楽器作りのワークショップなど、いろいろな“音楽”を楽しみます。1時30分、3時30分/4階Bスタジオ

- 10月17日 【中国の楽器たち】＝二胡(アルフー)や洋琴(ヤンチン)などが登場する中国の楽器のアンサンブル。出演は、王明君グループ。
11月7日 【創作影絵劇 アジアのおばけ(インドネシア編)～トゥールがほくらの街にやって来た】＝インドネシアの“おばけ”のおはなしを、来日中の留学生と共同で、音楽影絵劇にしました。インドネシアの楽器を使った音楽が影絵をもちあげます。

インフォメーション INFORMATION 青山劇場 第13回青山演劇フェスティバル～1999・再生へ～

第13回青山演劇フェスティバル 10月14～31日 青山円形劇場

「再生へ」をテーマに3演目上演

「第13回青山演劇フェスティバル～1999・再生へ～」の製作発表会が、9月10日に[こどもの城]で開かれ、出演者・演出家が出席し、それぞれの抱負を語りました(写真下)。今回の青山演劇フェスティバルのテーマは「再生へ」。しばらく活動を休止している(あるいは解散した)劇団・カンパニーが、もう一度立ち上がる姿を通じて「再生へ」というテーマを浮かび上がらせます。3つの劇団・カンパニーが、それぞれに

魅力あふれる3作品を上演します。『20世紀ノスタルジア ホギウタ～北村想「寿歌」より～』10月14～20日/青山円形劇場×ブリキの自発団プロデュース 『胸さわぎの放課後'99～もういちど逢いたい～』10月22～24日/篠塚祥司(元金杉忠男ASSOCIATES)プロデュース 『銀の実時間』10月27～31日/青い鳥スペシャルプレゼンツ



1979年に初演された北村想の「寿歌」は多くの注目を集めました。今回は、ルビー・モレノをはじめとする出演者全員が在日外国人。予言に満ちた「寿歌」から、新しい伝説の「ホギウタ」が生まれます。

保育所や児童館などの現場で役立つように、[こどもの城]の活動をまとめた事例集。プログラムの企画から実際に、実際のノウハウがいっぱい。

【こどもの城】イラストで見る「スポーツ遊びで健康づくり～子どもの成長に合わせて」 乳・幼児期は、親と子どもが二人三脚で行うスポーツ遊び。学童期になると、遊びからスポーツへと興味は広がっていきます。「乳・幼児の運動(子育ての中で)」身近な道具でスポーツ遊び「なわとボール体操」「スポーツ遊びで体力づくり」など、分かりやすくイラストで紹介。 こどもの城体育事業部編者

【こどもの城】一緒に遊ぼう楽しく子育て～一人ひとりが輝くために 1・2・3～5歳の幼児から、母子、親子、父子、家族を対象としたプログラムまで、保育者の視点、実施上の注意点、応用・発展へのヒントなど実際のノウハウがまとめられています。 こどもの城保育研究開発部編者

【こどもの城】うつるうごく「映像遊び」探検隊～アニメおもちゃからビデオまで 映画発明以前に考案された「視覚玩具」(眼の錯覚・残像などを利用した玩具)を応用した遊びから、ビデオを使った遊びまで、特別な道具を使わずに楽しめる「映像遊び」を紹介。巻末には主要プログラムの型紙がついています。 こどもの城AV事業部編者